

令和4年度第2回匝瑳市子ども読書活動推進計画策定委員会議
会 議 録

- 日 時 令和4年9月26日(月) 15:30～16:50
- 会 場 匝瑳市民ふれあいセンター第一会議室
- 出席委員 石橋春雄委員長(図書館協議会代表)、小澤祐子委員(市内小学校代表)、大野裕子委員(図書館ボランティア代表)、鵜澤和子委員(家庭教育指導員)、高橋恵美委員(市内保育所代表)、鏑木輝美委員(市内幼稚園代表)、矢澤敏和委員(学校教育課長)、川口義夫委員(図書館長)、畔蒜稔行委員(生涯学習課長)
以上9名
- 欠席委員 加藤雅博副委員長(市内中学校代表)
- 事務局 熱田室長、越川主査

1. 開 会 熱田室長が進行
2. 挨拶 石橋委員長、二村教育長
3. 議 事 石橋委員長が議長となり進行

- (1) 匝瑳市子ども読書活動推進計画(第三次)(素案)について
- 議 長 事務局の説明を求める。
 - 事務局 匝瑳市子ども読書活動推進計画(第三次)(素案)の説明。
 - 議 長 事務局より、第三次推進計画の案について説明があったので審議をお願いする。
 - 委員A 市の図書館を利用するには図書カードが必要となってくるが、小学校に入学時点で、1年生全員が図書カードをいただくことは可能だろうか。
 - 委員J 学校からの要望があれば、まとめて発行している。
 - 委員B 図書館が近い学校だけでなく、図書館を使うきっかけとなるので、ぜひ、どの学校でも全児童に図書カードを発行していただきたい。
 - 委員C それに関連して、健康管理課の4カ月健診でブックスタート時にも、図書カードの発行は可能だろうか。
 - 委員J 図書カードの発行については、関係機関と相談の上、検討する。
 - 委員C 読み聞かせの代替案として行われたオンライン読み聞かせについて2点お伺いしたい。子ども達の反応、それが続いているかについて

- 回答願いたい。
- 事務局 校長室でP Cに向かい読み聞かせを行い、その様子を全校児童が各教室にてオンラインで聞く体制とした。どの教室でも静かに聞き入り、読み聞かせが終わった後には、読み手に対して感謝の気持ちを表していた。現在は、感染症対策を図りながら、実際に読み手が教室の中に入り、週2人ずつ読み聞かせを行っている。
- 委員D 子ども達と保護者に対する啓発で、「子どもに読んでほしい本100選」等の本の紹介をさせていただいているところであるが、実際の「もの」が現場にあるとありがたい。各保育所（園）等に「絵本ポケット」とおすすめの本の用意を願いたい。
- 委員J 持ち帰って検討する。
- 議長 家読（うちどく）の推進を第4週に設定した根拠について伺いたい。
- 事務局 もともと、「子ども読書の日」が4月23日に設定されている。この日が第4週になることが多いこと、忘れずに取り組める週の最後を設定した。そのために、関係機関と連携を図りながら、防災無線で呼びかけたり、学校に土日の宿題の1つとして加えていただけるとうお便りを出したりするなど広報活動に努めていく。
- 委員E 図書館の成果にある市内図書館の蔵書数は、過去のデータなので、直近のデータで示していただきたい。
- 事務局 再度お示しする。
- 委員E 家読（うちどく）の推進、「親子でやりましょう」という環境の整備は大変良いアイデアである。これには家庭教育の普及が必須であることから、推進部署に生涯学習課を入れる必要があるのではないだろうか。
- 委員F 家庭教育学級に関わる生涯学習課をご指摘の通りとする。
- 委員E 本を通しての交流活動の推進に、高齢者への児童生徒による読み聞かせを行うとあるが、高齢者支援課に御協力をいただかなくてよいのか。
- 事務局 高齢者支援課と相談し検討する。
- 委員G 文章の表現「水を差す結果となってしまった」はふさわしくない表現なので、再検討を願いたい。
- 事務局 持ち帰り再検討する。
- 委員E 数値目標について各委員からの賛同を確認願いたい。
- 事務局 コロナ禍において令和3年度の数値が、前回の数値目標に到達できていないことから、前回の数値目標を基に、部会員5名で検討し、令和9年度の数値目標を設定させていただいた。設定数値は御賛同

いただくことでよろしいか。

- 各委員 (全会一致)
- 委員H 司書教諭の配置要望の記載について、詳細をお伺いしたい。
- 委員E 司書教諭は学校事情で、図書担当になることが難しい。それでも司書教諭に、できる限り図書館担当になってもらいたい思いがあって記載した。
- 議長 児童書の団体貸出冊数の減少原因について、コロナ禍の影響があることは明確だが、それ以外の原因について説明願いたい。
- 委員J 減少の原因は、少子化に伴う児童生徒数の減少が要因の1つと考えられる。
- 議長 のさか図書館は児童書の充実が図られているものの、児童の利用が少ない。子どもも大事ではあるが、親に向けてのアピールを強化していかなければならないのではないだろうか。
- 委員E 令和2・3年の小中学校の団体貸出数は増えている。しかし、保育所(園)、幼稚園の団体貸出は平成28年から激減している。図書館からのPRが不十分である。絵本は幼児が最も興味関心を示す。読書好きにする基礎作りとして、配本サービス等積極的な呼びかけが必要ではないだろうか。
- 委員J 市内幼稚園、保育所(園)、放課後児童クラブ、子ども教室も含めてPRを強化していく。
- 委員C 児童書を母親にも一緒に見てもらう、読んでもらうというPRをしていただきたい。大人でも楽しめる絵本を紹介できるとよい。
- 委員I 幼稚園では保護者と一緒に行う活動を行っている。親を巻き込むことで子どもにとっても本を借りやすいことにつながる。
- 議長 のさか図書館では、猫のブームがあったときに、猫の写真や物を置いた時に、子どもがたくさん来た。子どもが興味を引くような環境を整えていただきたい。
- 事務局 今後の予定は、御指摘をいただいた検討事項について、早急に修正案を取りまとめ、作業部会にて確認を行う。その後、委員長と相談し、修正案を再度確認させていただいた上で、10月にパブリックコメントを実施する。意見があった場合は第3回策定委員会議を開催し、再修正の上、2月の定例教育委員会会議で推進計画の決定を考えているので、引き続きご協力をお願いする。

4. 閉 会